

やなぎみわ演劇プロジェクト
野心的創作の「企み」について聞く!

02

Oct 2011

K
A
T

ワケ
あり
アート
新聞

疾走するアヴァンギャルド
やなぎみわ「1924海戦」上演せまる!

横浜



ヨコハマトリエンナーレ2011
連携プログラム
「日常/ワケあり」「1924 海戦」
「ブラックボックス」「ISAMU」

2011.8.6→11.6
ヨコトリへ行こう
YOKOHAMA TRIENNALE 2011



やなぎみわ演劇プロジェクト 野心的創作の「企み」について聞く!

PLAY

『マイ・グランドマザーズ』『フェアリーテール』など写真、映像作品で世界的に高く評価されている美術作家・やなぎみわ。昨年から演劇公演を行なっている彼女が、明治と昭和の狭間、多彩な芸術的才能が開花した大正末期、1924年を舞台に、今夏から展開しているのが「やなぎみわ演劇プロジェクト『1924』三部作」だ。第一弾は7月、京都国立近代美術館の展示会場で行われた『1924 Tokyo-Berlin』で主人公は美術家・村山知義。初の劇場公演となる『1924 海戦』では、関東大震災直後の東京に日本現代演劇の聖地とも呼ぶべき築地小劇場が誕生する縁を、こけら落とし作品『海戦』を劇中劇に仕立てつつ演出家・土方与志の視点から描き出す。その野心的創作の「企み」について聞いた。

劇場＝ブラックボックスへの憧れ

—美術作家として活躍するやなぎみわが、演劇に関心を持った経緯からまず伺いたいのですが、

ちょっと長くなりますが、工芸科で大学を出たあと20代から美術作家として活動し、その作品の多くは写真や映像からなるものでした。エレベーターガールをモチーフにした作品を展覧会で発表するようになったのが1995年頃。でもその前に実は、自身のエレベーターガールでパフォーマンス作品を創作しているのです。卒業後の初個展は、ガラス引きのギャラリーの中でエレベーターガールが、一日中突っ立っているという、まるで活人偶のような作品だったんですね。その次に、兵庫県立美術館の現代美術のグループ展で、エレベーターガールに扮した女性たちが毎週日曜、美術館に現れて作品の解説をしていくというパフォーマンスを1ヶ月ほどやったこともありました。

それらの体験は面白く刺激的ではあったのですが、当時の私にとって生身の人間は、何もコンドール下に完全に置き置かれた素材で、そのことにどうにも馴染めなかった。

その後、創作は写真と映像に移行していくのですが、被写体としてではなく、変わり続ける生身の人間を使った創作と表現への欲求は自分の中に引っぱり続けていて、一観客としては演劇を観続けていましたし、その消えない欲求に一度きり立ち向き合おうとは仕方ない、と改めて挑戦しているのがこのプロジェクトなんです。このシリーズにはエレベーターガールになる「案内嬢」という狂言回し、ナレーターが登場します。

持っているんですよ。去年から私が演出してきた場所は某茶室や広場に設置したカフェ、このプロジェクトの第一弾も美術館の展示室でしたから、本格的な劇場は今回が初めて、すごく緊張しています。

—築地小劇場の創立と、そこに連なる同時代の人々を題材にする着想はどこからのものなのでしょう。関係者の方には「いきなり演劇の本丸に攻め入った命知らず」と思われたのかも(笑)。でもどれが本丸なのかよくわからないので、とにかく始めるならば近代化の部分から理解していければいいかと。美術は20歳そこそこから無知なまま手探り感覚だけで始めましたからね、2度目のスタートは始め方を変えてみようというのではありません。もちろん動機としては日本の演劇史における重大な出来事を探ろうという意識より、演劇芸術に憧れた超人的な仕事ぶりや、背景となる激動の時代に強く惹かれたことが大きいです。

—関東大震災が起こったのが1923年9月1日、同年12月に留学から帰国した土方与志が、用地探しから始めたにも関わらず10ヶ月後の翌6月には劇場を完成させ、こけら落とし公演を実現させる。文字通り不眠不休で、己の理想を具現化するために働き続けたのだと思います。にも関わらず、私が調べたことから想像するに、土方の中には芸術的や思想的、引いては政治的にも揺るがぬひとつの指針があったわけではなく、欧米やロシアから移入したばかりの権や主義、手法に戸惑い、心揺れるようなことが多かったのではないかと想像しています。大いなる希望と志を胸に新たな劇場の創立邁進しながら、その消えない欲求に一度きり立ち向き合おうとは仕方ない、と改めて挑戦しているのがこのプロジェクトなんです。このシリーズにはエレベーターガールになる「案内嬢」という狂言回し、ナレーターが登場します。

「引き裂かれた時代」を舞台化するために

—長年の想いを実現されたわけですね。

—確かに時代も人も非常にエネルギーが、海外も含めジャンルを超えた交流が驚くほど行われていた時代だと思います。

—確かに時代も人も非常にエネルギーが、海外も含めジャンルを超えた交流が驚くほど行われていた時代だと思います。

—留守組が持ち込む知識や情報で、芸術や思想の最先端が目撃刷新されていくような状態だったのでは



—まず、第一弾の主人公・村山知義も移入したばかりの構造主義について、日本への定着と変遷、その終局までを見越した論文を書きつらまうほどでした。で、そんな前へ前への勢いで湧き立っていたかといえば、社会はもはや偉大な明治ではなく、日露戦争勝利の借債金が思うように取れず不況に陥り、ワシントン軍縮会議で折角増産した軍艦を破棄せねばならない事態に追い込まれている。そこに震災と急速な復興が重なり、治安維持法と普通選挙の施行など、「引き裂かれた時代」とでも呼ぶべき複雑な状況と、そこから生じる高揚感や築地小劇場の背景にも重なっています。そして、そんな状況こそけら落としの『海戦』は非常に象徴した作品だと思いますね。

ドイツのゲーリング作『海戦』は、当時最先端の前衛劇でした。

—劇場の帯開きから、難解な、前衛に振り切った作品を上演する。フィルムは残っていませんが、土方自身もどう演出して良いのか明確にならぬまま、「とにかく台詞を速く、怒鳴るように喋ってこれ」というような演出をしていた。しかも「前兆だ！前兆だ！」というのが最初の台詞で、そこが築地小劇場の命運とも呼んでいるように思えます。今回の作品はこの『海戦』を核とした、群のような

三重構造をイメージしています。真身に当たるのが舞台『海戦』自身をそれをつくる土方築地小劇場の人々、そして登は当時日本に登場したのモデルガールの化身＝案内嬢の役名で、時代背景から築地の解説などもそのナレーションが語る部分です。この三層を往還しつつ、時に混ざり合ったりしながら舞台は進行していきます。正直に言いますと、作品の詳細な全貌は私自身にもまだ見えてはいません。これから始まる稽古場での、演出という生身の俳優に向き合う時間が、私自身にとって一番悩ましい・創作の過程なのですから、でもそれを乗り越えた先に、劇場でお客様と舞台の時間が共有できることには、今から期待が湧いています。

取材・文＝尾上さら

やなぎみわ演劇プロジェクトVol.2 1924 海戦

11月3日[木・祝]～6日[日]
KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ
アーティスト?
よりリアルな表現を求めて美術観 劇場へと自然に到達する前代未踏のアート / 演劇プロジェクト1 ウェネチア・ビエンナーレ 日本館代表作家を務め、国際的に活躍する美術作家やなぎみわがKAATで演劇公演をプロデュース!
1924年、関東大震災の直撃中からわずか10ヶ月後に立ち上がり、日本の「演劇」の礎となった伝説的劇場を再現しますか?
築地の劇場、日本の「近代演劇」はここから始まりました。大正モックラシを背景に、文学、音楽、美術、演劇たちが垣根を越えて集り、新しい表現の花が開いた時代、時代の演出家として活躍した土方与志や小山内薫、美術家伊藤蓀樹などが、才能を開花させてきました。ロシア・アヴァンギャルド、バウハウスと、世界のアートも激動の時代、急速近代化の現場の中、今よりもっとと世界＝日本/未来＝いまが切実に呼応していたからこそ、新しい表現を求めて、未来に向かって飛出したクリエイターたちの意欲と情熱、現代の若手美術家を代表するやなぎみわが再興、21世紀のいま、私たちはそこに何を発見できるでしょうか。
原案・演出＝やなぎみわ
脚本＝あこうざとし
出演＝金野真樹 (MONO)、富岡真一、山本真貴、大久保麻乃、植田真由(文学部)、川口真、山田大輔(文学部)、瀧山悠介、下村マコ、藤原友成(文学部)、藤原麻衣(文学部)
全席指定 一般2,500円
※14才未満、高校生以下割引、シルバー割引あり [詳細はチケットかながわ]
※観劇・株主会費発生
チケット予約 ☎045-662-8866 (チケットかながわ)



ISAMU公開リーディング



PLAY
横浜美術館にもある、イサムノグチの作品。作品が醸し出す温かみやユーモア、辛辣さ、未来への希望は、いままも若男女を問わず、私たちが魅了します。なぜ、彼の作品は古さを感じさせないのか。イサムに対するその疑問、そして“なぜ人は、クリエイションをするのか”という答えの出ない大きなテーマを少しでも探りたく、今の日本の状況と絡め、脚本の西森英行さん、脚本アドバイザーの岡内秀明さん、松空今日太さんと共に、この数ヶ月間考察してきました。今回は、よりよい舞台作品を生み出すための創作途中の過程を公開するというワークショップ形式で、役者4名による公開リーディングを行います。ヨコハマトリエンナーレ2011もいよいよ最終盤! イサムノグチに興味がある方、新しいお芝居の誕生を自撃したい方、ぜひぜひご参加ください!
KAAT神奈川芸術劇場 芸術監督 宮本重門

KAAT 神奈川芸術劇場 ☎045-633-6500 http://www.kaat.jp/

神奈川県民ホールギャラリー 2011年度企画展「日常／ワケあり」 NY発 新進気鋭作家による大規模インスタレーション

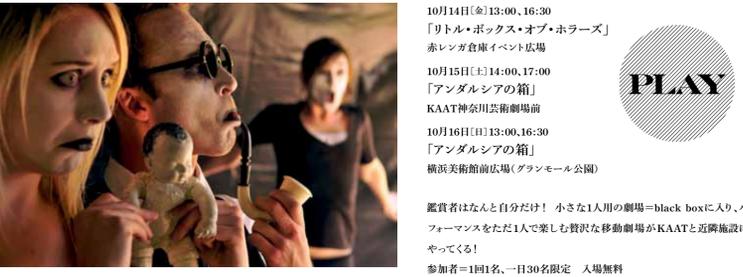


「沈黙から 堀田春生」「小金沢健人 あれとこれのあいだ」「泉太郎 これる」など、積極的に若手作家を紹介してきた神奈川県民ホールギャラリー。過去の展示作家達と、当ギャラリーでの展示をきっかけに、さらに活躍の場を広げています。今年は一昨年の「日常／場違い」に続く「日常／ワケあり」と題し、ニューヨークを拠点に活動する3人の日本人作家によるグループ展を開催します。絵画の手法を取り入れて家具や日用品をモチーフとした立体作り、インスタレーション制作を行う江口悟。プラスチックフィルムに光を照射することにより、光が波動する壮大なインスタレーションを制作する田口一枝。本やインターネットなどのメディアから無数のイメージを集めて繋ぎあわせたオブジェで、インスタレーション制作する播磨みどり。将来を期待される3人の作家達の「現在」を示す、刺激的な展覧会から目が離せません。
10月18日[火]～11月19日[土]
10:00～18:00(会期中無休)
神奈川県民ホールギャラリー
入場料＝一般700円/学生・65歳以上500円/高校生以下無料
※入場は開場の20分前まで
※10月29日(土)はアートコンプレックス2011開催のため14:00開場
※10月22日(土)、11月5日(土)、12日(土)、19日(土)は19:00まで開場
「イベント情報」
当日消印のチケットをお持ちの方はたてもご覧になれます。
アーティストーク
10月22日[土] 14:00 江口悟、田口一枝、播磨みどり
6日[日] 16:00 秋山博 (デザイナー)
×加藤賢策 (デザイナー)
12日[土] 16:00 加藤賢策 (アートディレクター)
13日[日] 13:00 播磨みどり / 18:00 田口一枝
19日[土] 14:00 遠敷重理子 (横浜美術館館長)、田口一枝、播磨みどり
パフォーマンス
平原慎太郎「昼夜転輪」
10月23日[日] ①14:00、②16:00
※845分程度、①と②の内容は異なります。
栗川晶子 インパロウ・セッション
10月30日[日] 14:00、16:00
※各回の内容は異なります。

神奈川県民ホール ☎045-633-3795 [アートコンプレックス2011のチケット予約: チケットかながわ ☎045-662-8866 (10:00～18:00)] http://www.nichijo-wakeari.info/

今年2011年1月に開館したばかりのKAAT(カート)神奈川芸術劇場。宮本重門芸術監督の演出によるこけら落とし公演「金閣寺」を始め、三谷幸喜作・演出の「国民の映画」、S・ソンドハイムによるミュージカル「太平洋序曲」「スウィーニー・トッド」など、話題作を連続して上演してきました。この秋は、ヨコハマトリエンナーレ2011の開催と合わせて、アートに焦点を合わせた連携プログラムを上演します。同時に神奈川県民ホールギャラリーでは、ニューヨークを拠点に活動する3人の日本人若手作家による「日常／ワケあり」を開催します。横浜に来るならトリエンナーレだけじゃもったいない! KAATと県民ホールも要チェックです!

ブーツワークス・シアター「ブラックボックス」



PLAY
10月14日[金] 13:00、16:30
「リトル・ボックス・オブ・ホラーズ」
赤レンガ倉庫イベント広場
10月15日[土] 14:00、17:00
「アンダルシアの箱」
KAAT神奈川芸術劇場前
10月16日[日] 13:00、16:30
「アンダルシアの箱」
横浜美術館前広場(グランモール公園)
鑑賞者はなんと自分だけ! 小さな1人用の劇場＝black boxに入り、パフォーマンスをただ1人で楽しむ贅沢な移動劇場がKAATと近隣施設にやってくる!
参加者＝1回1名、一日30名限定 入場無料
上演時間約5分
大好評! 終了しました
KAAT芸術監督・宮本重門コメント
「街角エッジバラ演劇で見たもっとも衝撃的でユニークで楽しい作品。それがブラックボックスでした。その新しい発想は、今まで劇場という意味合いをノックアウトして、実に不思議で面白く、人の輪を繋げてくれます。一人しか入らない劇場。空石箱のような劇場が、街のあちこちに神出鬼没。この体験はまっとう今までの常識を変えてくれます。」
KAAT芸術監督・宮本重門コメント
「街角エッジバラ演劇で見たもっとも衝撃的でユニークで楽しい作品。それがブラックボックスでした。その新しい発想は、今まで劇場という意味合いをノックアウトして、実に不思議で面白く、人の輪を繋げてくれます。一人しか入らない劇場。空石箱のような劇場が、街のあちこちに神出鬼没。この体験はまっとう今までの常識を変えてくれます。」

来年生誕100年を迎える ケージの音楽と身体表現、現代美術による一日限りの共演



現代美術作品と音楽、ダンス、言語表現や日本の古典芸術など、ジャンルのを超えた芸術の融合により、新たなアート・シーンの創造を試みる実験的プロジェクト、「アート・コンプレックス」5回目の挑戦となる今回は、来年生誕100周年を迎えるジョン・ケージに焦点をあて「不確定性」をテーマにパフォーマンスを行います。今回初となるのは、注目の新進作家展「日常／ワケあり」に出品される、田口一枝によるインスタレーション。ケージも活躍したNYを拠点とする田口が作り出す、不確定要素を取り込んで波動する壮大な空間で、ケージの音楽と身体表現(ダンス)、美術による一日限りの共演は、何を生み出すでしょうか。ケージを日本に初めて紹介し、当時のNYの最前線で活躍、現在も若手音楽家達と共に積極的に活動し続けている一樹堂をナビゲーターに迎え、過去と現在のNY、空間芸術と時間芸術の関係性、ケージの知られざる新たな一面に触れるひとときです。
日常／ワケあり
×アート・コンプレックス2011
ジョン・ケージ生誕100年
「せめぎ合う時間と空間」
10月29日[土] 16:00開演 / 19:00開演
神奈川県民ホールギャラリー
全席自由2,500円 発売中
(プログラム)
ジョン・ケージ
(フリーマン・エッチード)より
(ワーケーション)より
(危険な夜)
田口一枝
出演
北村明子(ダンス)
亀井庸州(ヴァイオリン)
寒川晶子(ピアノ)
一柳 賢(観)



「ワケあり」作家 江口悟の 横浜ガイド

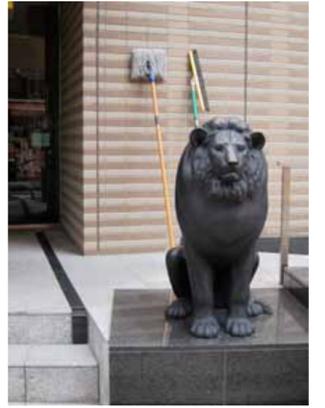
現在「日常／ワケあり」展特設サイト内のブログでは、展覧会の最新ニュースや作家のコメントを紹介しています。中でも好評なのが、作品制作と並行して「ワケあり」出品作家の江口さんが横浜で撮影した写真です。

人々の無意識や偶然によって街中に生み出される光景に惹かれるという江口さんの写真は、作品にも通じるおかしさを捉えています。ブログにはさらに多くの写真が掲載され、横浜の知られざる魅力に気付かされます。チェックしてみてくださいね。

アートトリップの合間に、みなさんも開港以来の歴史と、地区によって多彩な表情を持つ横浜の街を散策してみませんか？ アートによって刺激された感性で、街を探検してみましょう。

「日常／ワケあり」展特設ブログ

<http://www.nichijo-wakeari.info/>



せっかく来たなら1日元気に横浜アートトリップ!



横浜日帰りアートトリップ

「ヨコハマトリエンナーレ2011」だけではもったいない！ ニューヨークを拠点に活動する気鋭の現代美術家3人による「日常／ワケあり」写真と映像で独自の世界をつくりあげてきたやなぎみわによる演劇プロジェクト「1924海戦」など、今秋の横浜には見逃せない展示やイベントが盛りだくさんです。

A | 神奈川県民ホールギャラリー

<http://www.kanakengallery.com/>
現代アートの展覧会「日常／ワケあり」は朝10時開場。トリエンナーレの開場前にゆったり鑑賞はいかがですか。10/22、11/5、12、19の各土曜日は19時まで開館。静かな夜の作品鑑賞も雰囲気たっぷり！ アーティストトークなどイベントも見逃しません。さらに10/29(土)はスペシャルなイベント「アート・コンプレックス2011」もギャラリー内で開催。

B | KAAT 神奈川芸術劇場

<http://www.kaat.jp/>

県民ホールギャラリーから徒歩1分のKAAT 神奈川芸術劇場。今年1月にオープンしたばかりの舞台芸術のための新劇場です。

11月は現代美術家やなぎみわによる演劇プロジェクト「1924海戦」で時間旅行をどうぞ！他にもイサム・ノグチを題材にしたドラマリーディングや、KAAT芸術監督・宮本亜門がイチ押しする「たった1人の観客のための」お芝居「ブラックボックス」も上演されます。

C | 中華街

<http://www.chinatown.or.jp/>
実は県民ホールやKAATから誰もが知っている横浜中華街へはわずか徒歩5分。ランチはぜひ中華街へ。平日はランチ500円台のお店もあってとってもお得です。お友だちとそれぞれ違うメニューを注文し合えば、格安で中華フルコース！

D | 元町商店街

<http://www.motomachi.or.jp/>
中華街から川を挟んですぐの元町商店街。横浜開港の時代から西洋のモダンな文化を先取りしてきた横浜文

化を代表する通りです。ちょっと背伸びした気分になれるフレンチの名店から、名物パン屋さん、老舗洋菓子屋さんなど食も大充実！

E | 山下公園通り

県民ホールの正面は山下公園と横浜港。潮風と公園の緑が気分を開放してくれます。氷川丸やマリントワーの観光名所だけでなく、歴史に名を残すクラシックホテルの建築やいちょう並木の散策も魅力的。

F | みなとみらい線

<http://www.mm21railway.co.jp/>
食後の散歩に、山下公園～大さん橋～象の鼻パーク～赤レンガ倉庫～みなとみらい地区の散策もおススメです。港町横浜を満喫できますよ！
時間のない方には「みなとみらい線一日乗車券」がおすすめ。都心・県内からのお得な乗り継ぎチケットも多種あります。

G | ヨコハマトリエンナーレ2011

化を代表する通りです。ちょっと背伸びした気分にな

横浜美術館／日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)

<http://www.yokohamatriennale.jp/>
「ヨコハマトリエンナーレ2011」開催中は、トリエンナーレメイン会場と特別連携プログラム会場を結び、会場間無料バスが運行しています(約15分間隔)。上手に活用してくださいね！

H | ヨコハマトリエンナーレ2011 特別連携プログラム

- 黄金町バザール2011
<http://www.mm21railway.co.jp/>
- 新・港村 (BankART Life III)
<http://shinminatomura.com/>

アートを通じて地域再生を試みる黄金町・日ノ出町エリア。「日常／ワケあり」の作家も1ヶ月以上この街のスタジオに滞在してワークショップや作品制作を行っています。個性的なお店でちょっと一杯！もおススメです。赤レンガ倉庫の先、新港ふ頭に位置するのは「新・港村」。あらゆる国と種類のクリエイターが働く集合スタジオです。

横浜へのアクセス

- 横浜エリアへのアクセスは電車が便利！
みなとみらい線「一日乗車券」
一日に限りみなとみらい線を何回でも自由に乗り降りができる乗車券。 大人450円 小児230円
- 東急線「みなとみらいチケット」
東急線各駅から横浜駅までの往復乗車券と「みなとみらい線一日乗車券」を組み合わせたおトクなきっぷ。
- 京急線「横浜1DAYきっぷ」
「京急往復割引きっぷ」と電車・バスが乗り放題の「フリーゾーン1日乗車券」のお得なセットです。
- 相鉄線「相鉄MMチケット」
相鉄線各駅から横浜駅までの往復乗車券と「みなとみらい線一日乗車券」を組み合わせたおトクなきっぷ。
- JR線「ヨコハマ・みなとみらいバス」
根岸線「横浜～新杉田間」とみなとみらい線が乗り降り自由のきっぷです。横浜エリアへの観光やショッピングに便利なきっぷです。
※詳細は各鉄道HPでご確認ください。

2011.8.6→11.6 ヨコハマトリエンナーレ2011

YOKOHAMA TRIENNALE 2011
OUR MAGIC HOUR
世界はどこまで知ることができるか？
8月6日(土)～11月6日(日)
(休場日=9月の毎週木曜日、10月13日、27日)
開場時間=11:00～18:00(入場は17:30まで)
横浜美術館、日本郵船海岸通倉庫(BankART Studio NYK)、その他周辺地域で開催。
お問合せ=ハローダイヤル TEL 03-5777-8600 / 050-5541-8600 (8:00～22:00)
当日券=一般1,600円 / 大学・専門学校生1,000円 / 高校生600円
主催=横浜市、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会
特別連携プログラム=新・港村 (BankART Life III) (新港ピア) 黄金町バザール2011 (黄金町エリア)